

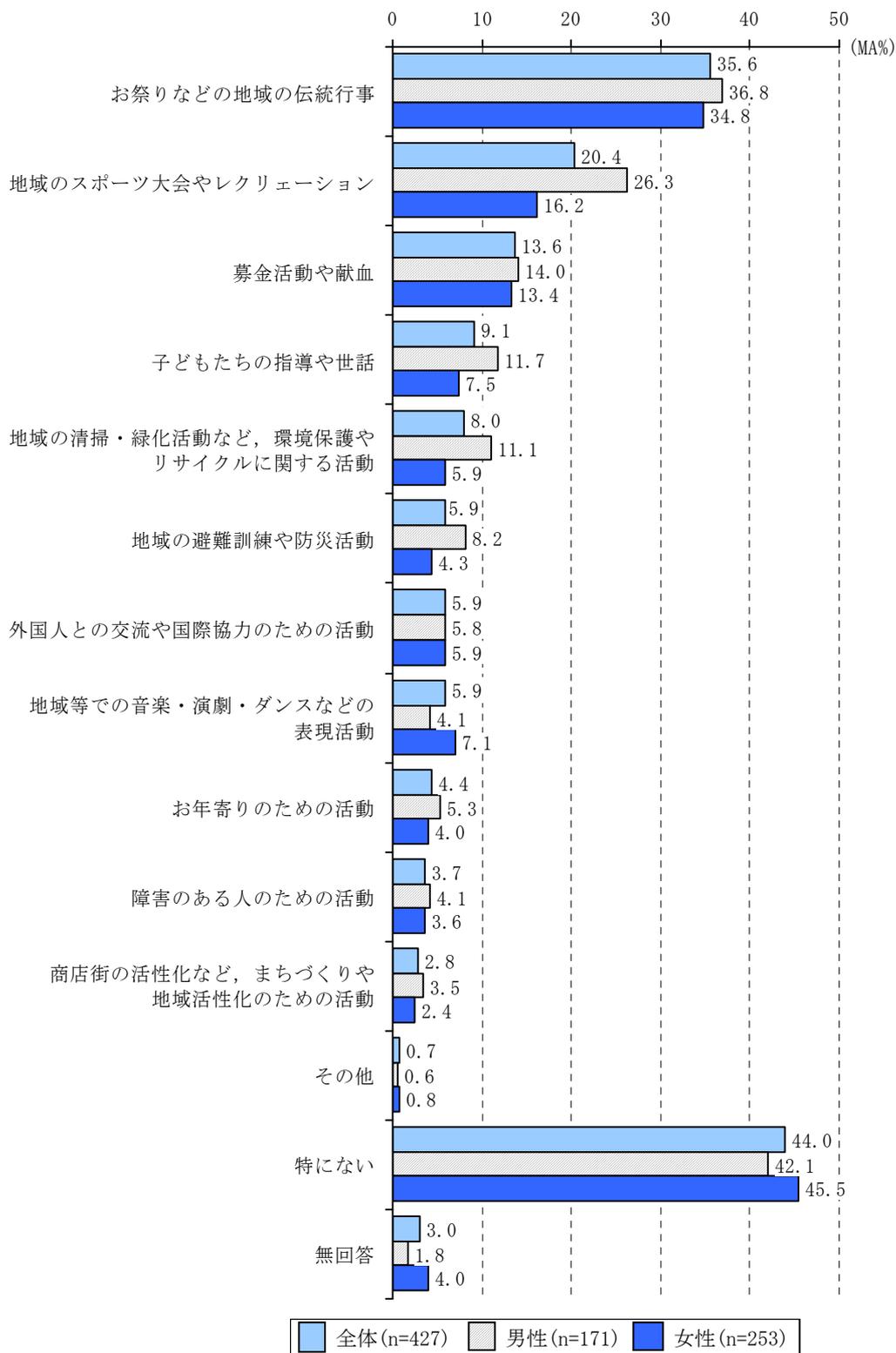
4 地域活動について

(1) 活動への参加経験

問19-1 この3年間に学校や仕事以外で次の活動に参加したことがありますか。

(○はいくつでも)

【図 4-1 活動への参加経験】



参加したことがある活動では「お祭りなどの地域の伝統行事」が35.6%で最も多く、次いで「地域のスポーツ大会やレクリエーション」(20.4%)、「募金活動や献血」(13.6%)となっている。一方、「特にない」が44.0%となっている。

性別でみると、男女とも半数以上は地域活動への参加経験がある。参加したことがある活動は、「お祭りなどの地域の伝統行事」が最も多い(男性36.8%、女性34.8%)。次いで男女とも「地域のスポーツ大会やレクリエーション」(男性26.3%、女性16.2%)だが、男性と女性で10.1ポイントの差が生じている。(図4-1)

就学・就労形態別に上位5項目をみると、中学生は「お祭りなどの地域の伝統行事」が58.2%で最も多いが、他の形態では、「特にない」が4～5割台で最も多い。

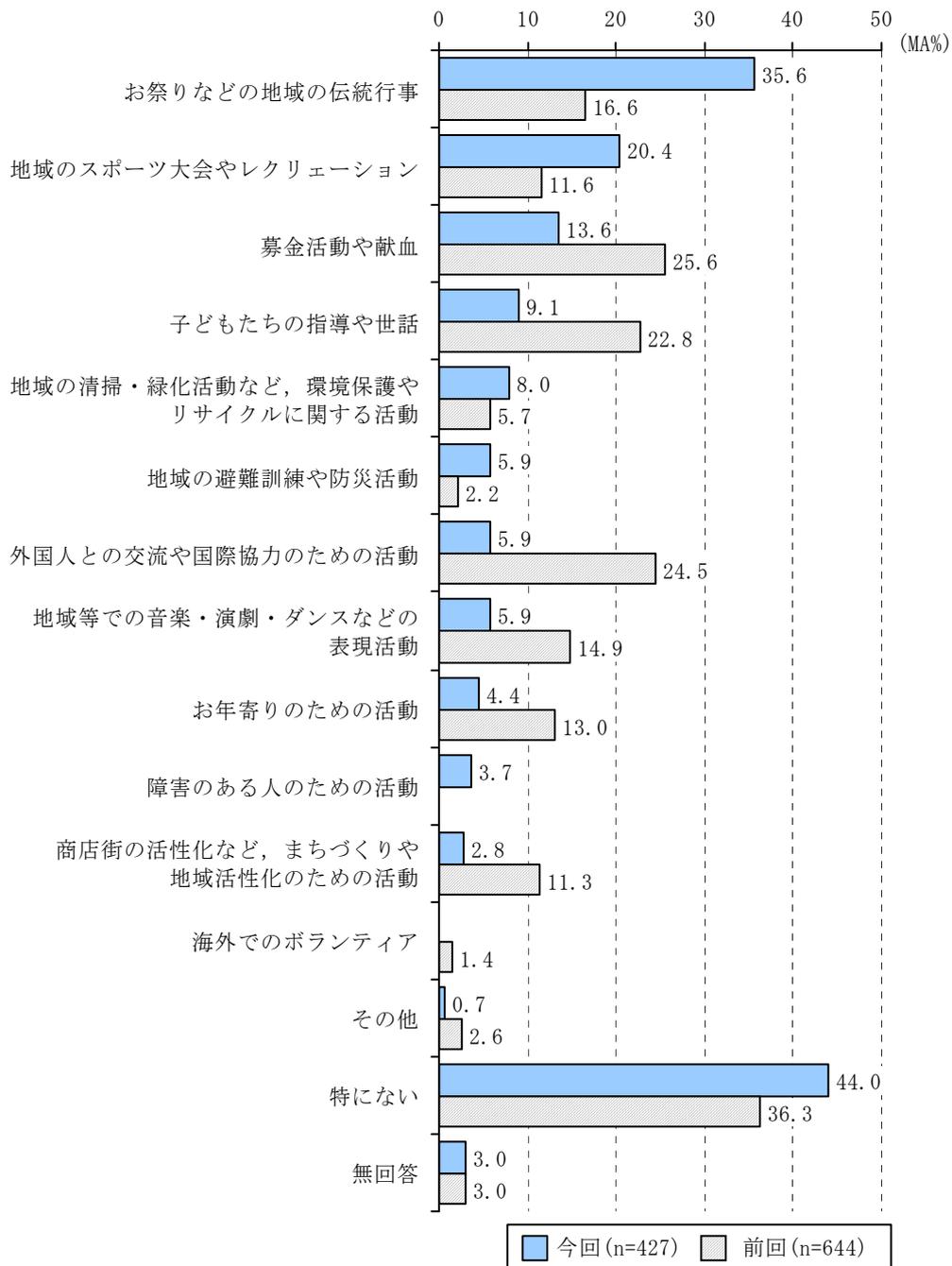
高校生以上の世代では、「お祭りなどの地域の伝統行事」に参加する青少年が3～4人に1人を占めるものの、中学校卒業を機に、地域活動から離れる青少年は少なくない。(表4-1-1)

【表 4-1-1 就学・就労形態別 活動への参加経験(上位5項目)】

(単位:MA%)

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|--------------------|---------------|--------------------|--------------------|-------------------------------|--|
| 中学生 (n=91) | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 特にない | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 | 募金活動や献血 |
| | 58.2 | 36.3 | 22.0 | 20.9 | 16.5 |
| 高校生 (n=68) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 | 募金活動や献血 |
| | 51.5 | 26.5 | 19.1 | 外国人との交流や国際協力のための活動 | 8.8 |
| 大学生等 (n=74) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | 子どもたちの指導や世話 |
| | 52.7 | 25.7 | 募金活動や献血 | 16.2 | 12.2 |
| 正規雇用者等 (n=101) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | 地域の避難訓練や防災活動 |
| | 45.5 | 32.7 | 15.8 | 14.9 | 8.9 |
| 非正規雇用者 (n=49) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | 子どもたちの指導や世話 |
| | 55.1 | 32.7 | 募金活動や献血 | 12.2 | 10.2 |
| 専業主婦・無職等 (n=30) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 |
| | 43.3 | 30.0 | 16.7 | 10.0 | 子どもたちの指導や世話 外国人との交流や国際協力のための活動 3.3 |

<前回調査との比較>



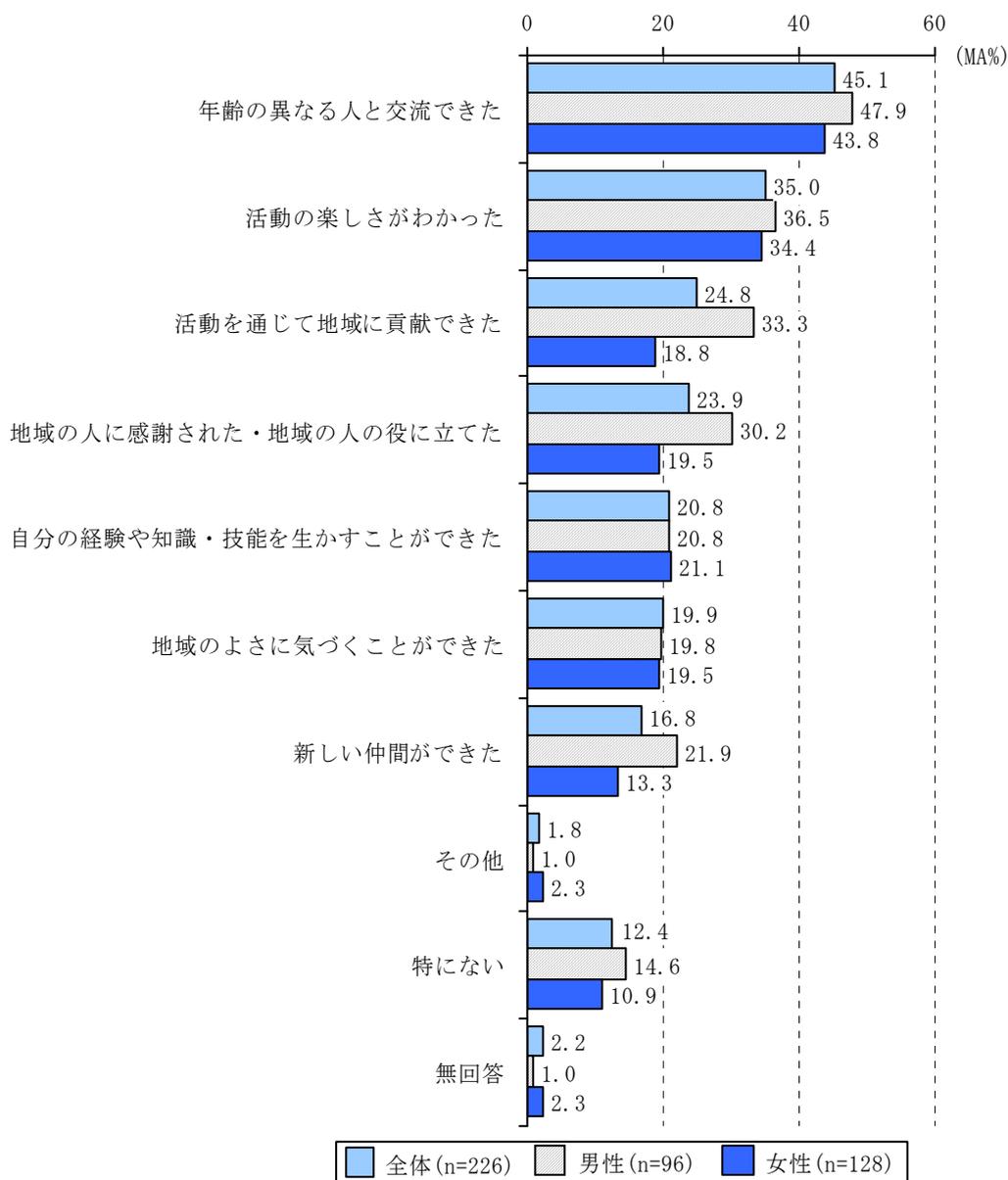
前回調査と比較して、10ポイント以上低下しているのは、「募金活動や献血」「外国人との交流や国際協力のためのボランティア」「子どもたちの指導や世話」である。

一方、「お祭りなどの地域の伝統行事」は前回調査に比べ19ポイント高くなっている。

(2) 地域活動に参加してよかったこと

問19-1で「1.」から「12.」のいずれか1つでも○をつけた方におうかがいします。
 問19-1① その活動に参加してよかったと思うことは何ですか。(○はいくつでも)

【図4-2 参加してよかったこと】



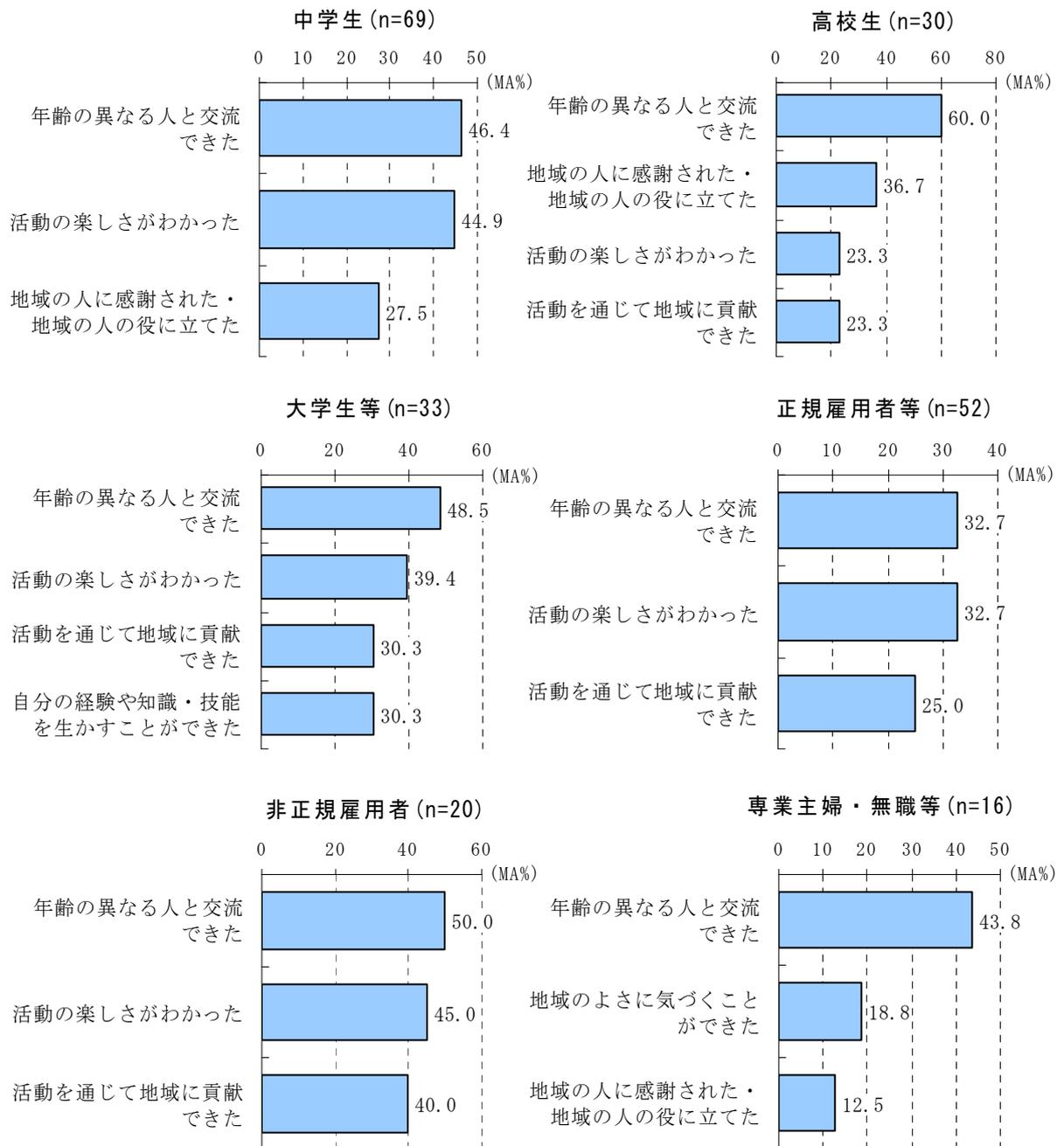
「活動に参加したことがある」と回答した人に、参加してよかったことをたずねると、「年齢の異なる人と交流できた」が45.1%で最も多く、次いで「活動の楽しさがわかった」(35.0%)、「活動を通じて地域に貢献できた」(24.8%)、「地域の人に感謝された・地域の人役に立てた」(23.9%)、「自分の経験や知識・技術を生かすことができた」(20.8%)となっている。

性別で見ると、男性と女性で10ポイント以上差が生じているのは、「活動を通じて地域に貢献できた」(男性33.3%、女性18.8%)と「地域の人に感謝された・地域の人役に立てた」(男性30.2%、女性19.5%)である。(図4-2)

就学・就労形態別では、いずれも「年齢の異なる人と交流できた」が最も多く、特に高校生では60.0%で最も高くなっている。

また、「活動を通じて地域に貢献できた」と回答した非正規雇用者は40.0%、「地域の人に感謝された・地域の人役に立てた」と回答した高校生は36.7%で、それぞれ、他の形態に比べて高くなっている。(図4-2-1)

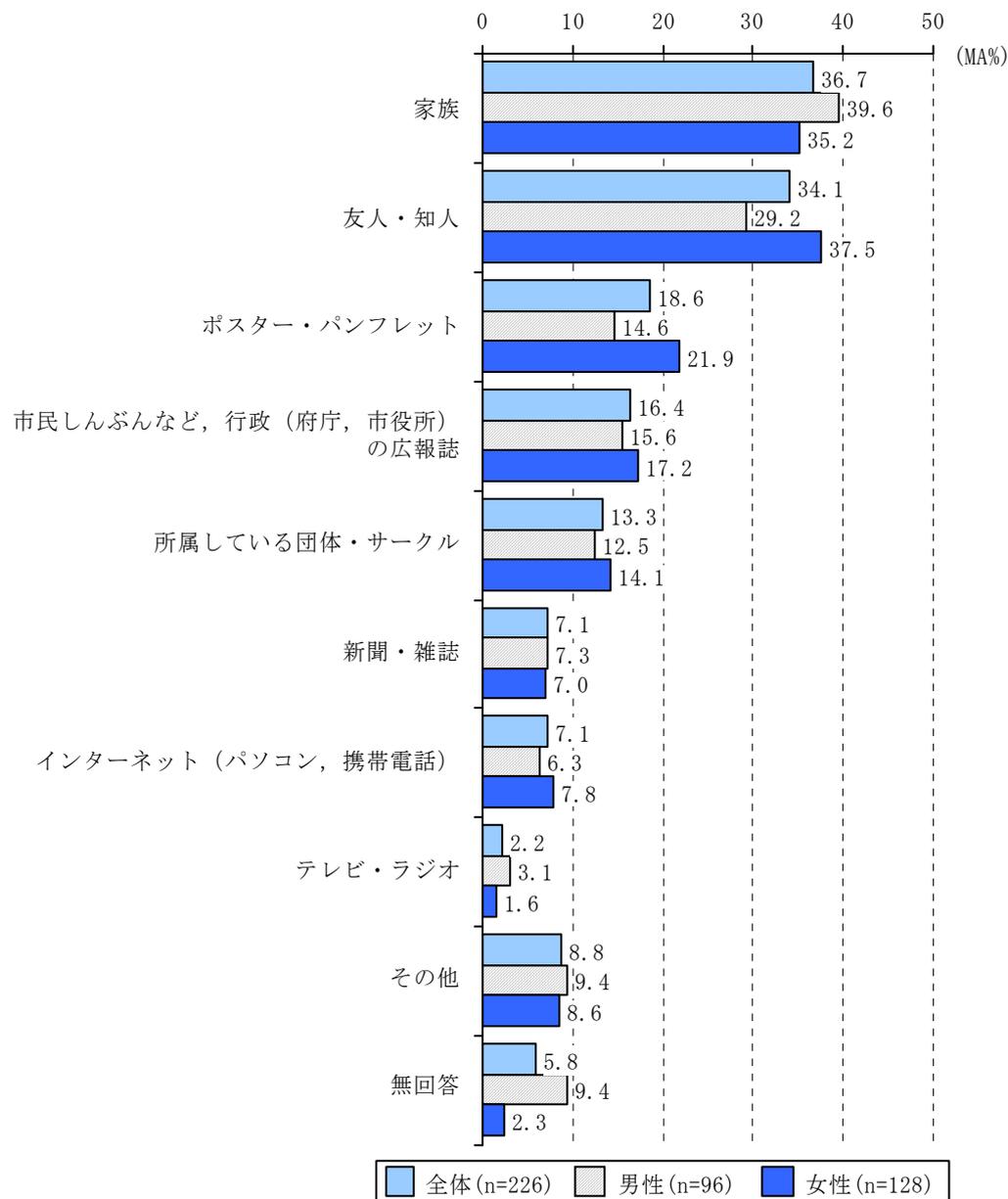
【図 4-2-1 就学・就労形態別 参加してよかったこと（上位3項目）】



(3) 参加した活動についての情報の入手経路

問19-1② 参加した活動についての情報をどこで知りましたか。(〇はいくつでも)

【図 4-3 参加した活動についての情報の入手経路】

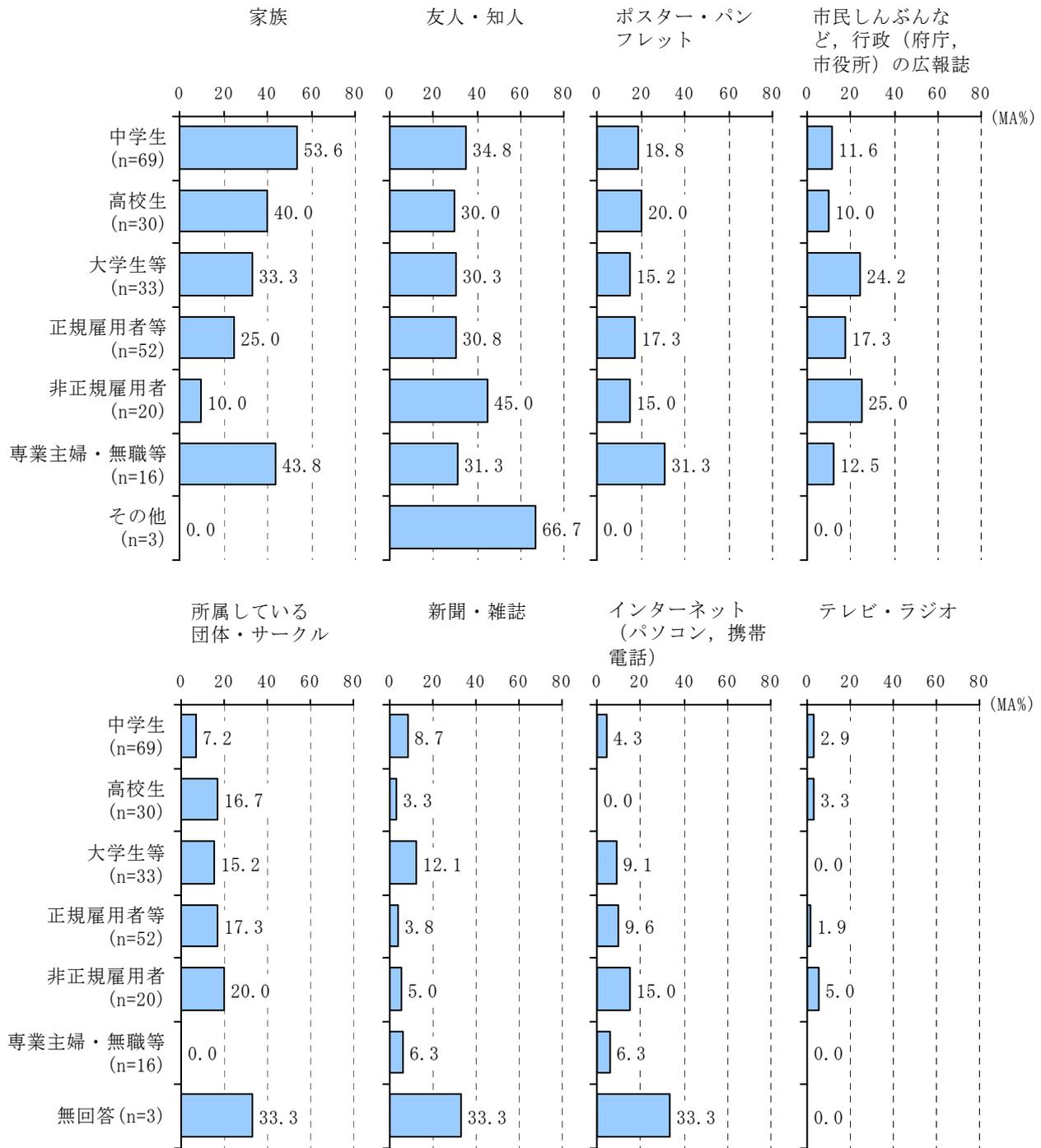


「家族」が36.7%で最も多く、次いで「友人・知人」(34.1%)、「ポスター・パンフレット」(18.6%)となっている。新しい知識や情報の入手方法（問7）では、「テレビ・ラジオ」や「インターネット」が上位を占めていたが、地域活動への参加の動機付けとなるのは身近な人からの口コミであることがわかる。

性別でみると、男性は「家族」が39.6%で最も多く、次いで「友人・知人」(29.2%)、「市民しんぶんなど、行政（府庁、市役所）の広報誌」(15.6%)となっている。女性は「友人・知人」が37.5%で最も多く、次いで「家族」(35.2%)、「ポスター・パンフレット」(21.9%)となっている。（図4-3）

就学・就労形態別でみると、中学生、高校生、大学生等、専業主婦・無職等は「家族」が最も多い。正規雇用者等、非正規雇用者は「友人・知人」が最も多い。(図4-3-1)

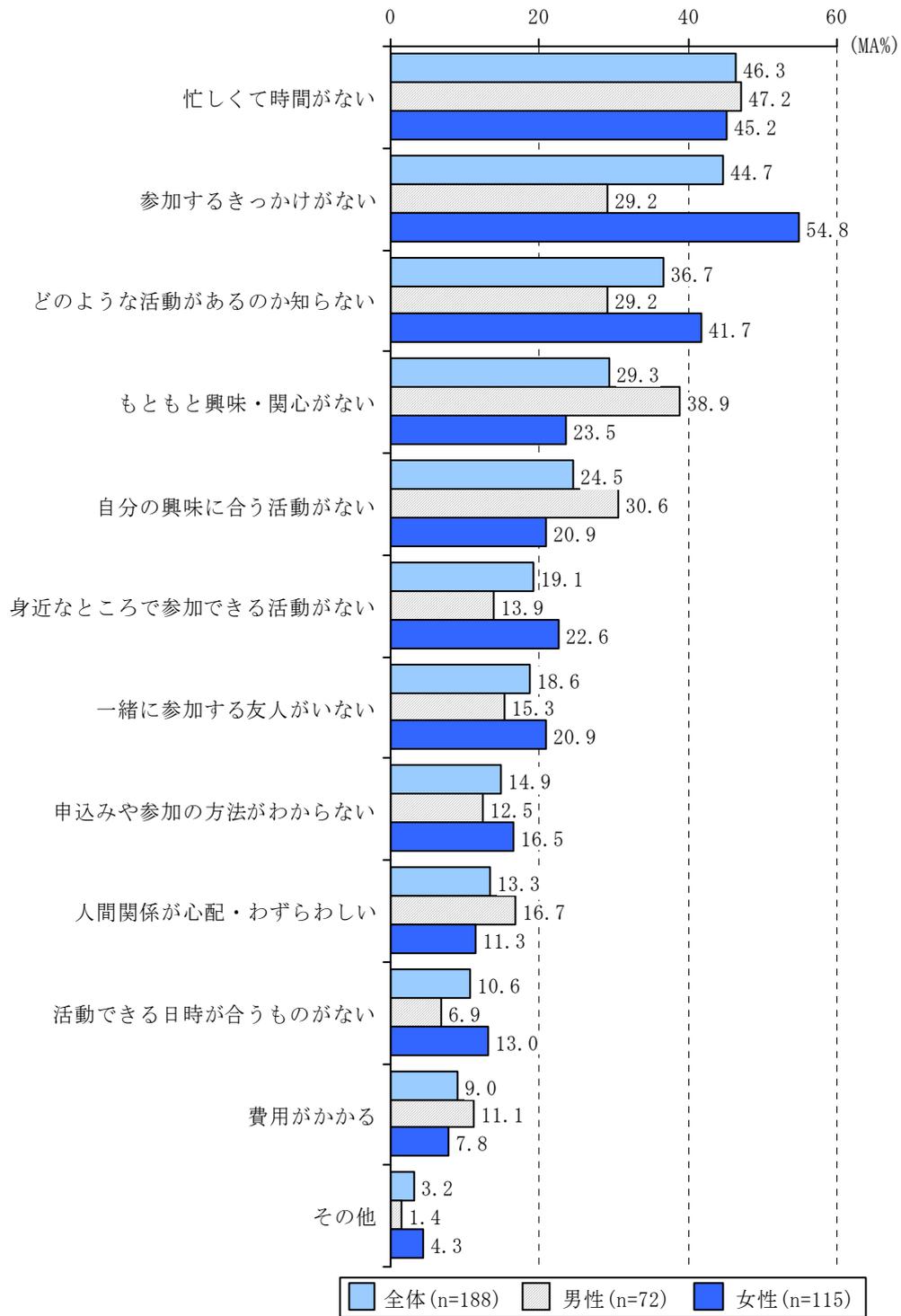
【図4-3-1 就学・就労形態別 参加した活動についての情報の入手経路】



(4) 参加しなかった理由

問19-3 《問19-1で「13. 特にない」に○をつけた方におうかがいします。》
 あなたが参加しなかった理由は何ですか。(○はいくつでも)

【図 4-4 参加しなかった理由】



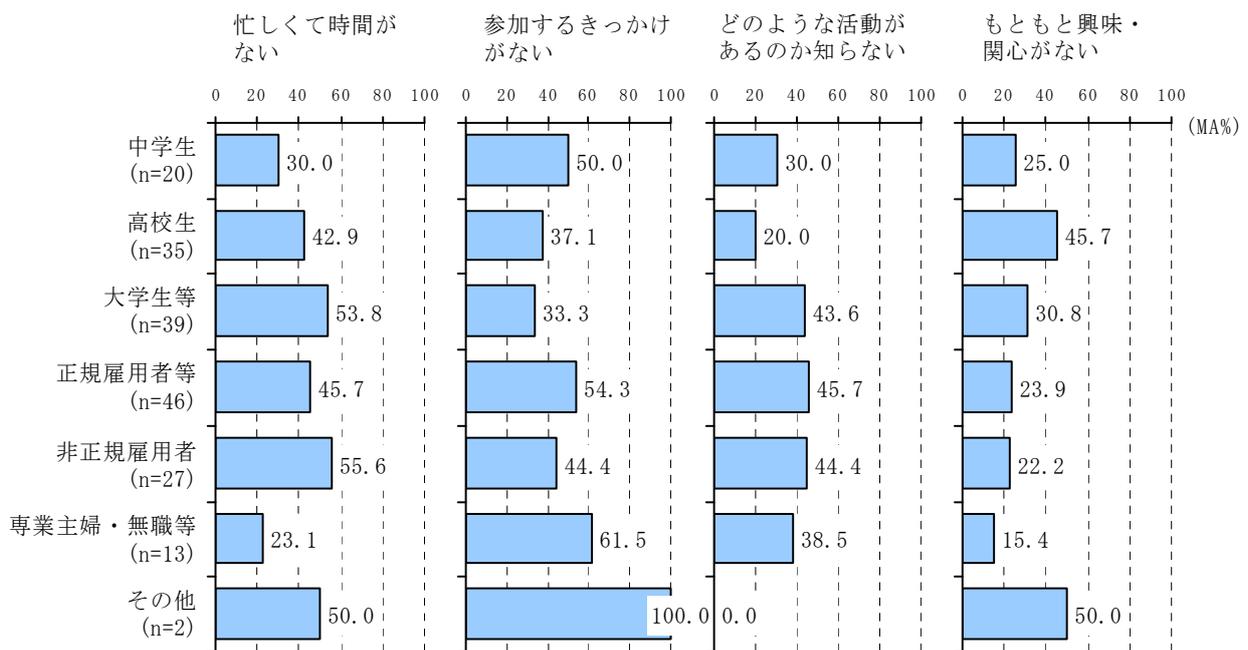
地域活動への参加経験が「特にない」と回答した人に、その理由をたずねると、「忙しくて時間がない」が46.3%で最も多く、次いで「参加するきっかけがない」(44.7%)、「どのような活動があるのか知らない」(36.7%)、「もともと興味・関心がない」となっている。

性別では、男性は「忙しくて時間がない」が47.2%で最も多く、次いで「もともと興味・関心がない」(38.9%)、「自分の興味に合う活動がない」(30.6%)となっており、女性に比べて地域活動そのものへの関心が薄いことがうかがえる。女性は、「参加するきっかけがない」が54.8%で最も多く、次いで「忙しくて時間がない」(45.2%)、「どのような活動があるのか知らない」(41.7%)となっており、女性の地域活動への参加を促進するためには、きっかけづくりや情報提供が重要であることがわかる。(図4-4)

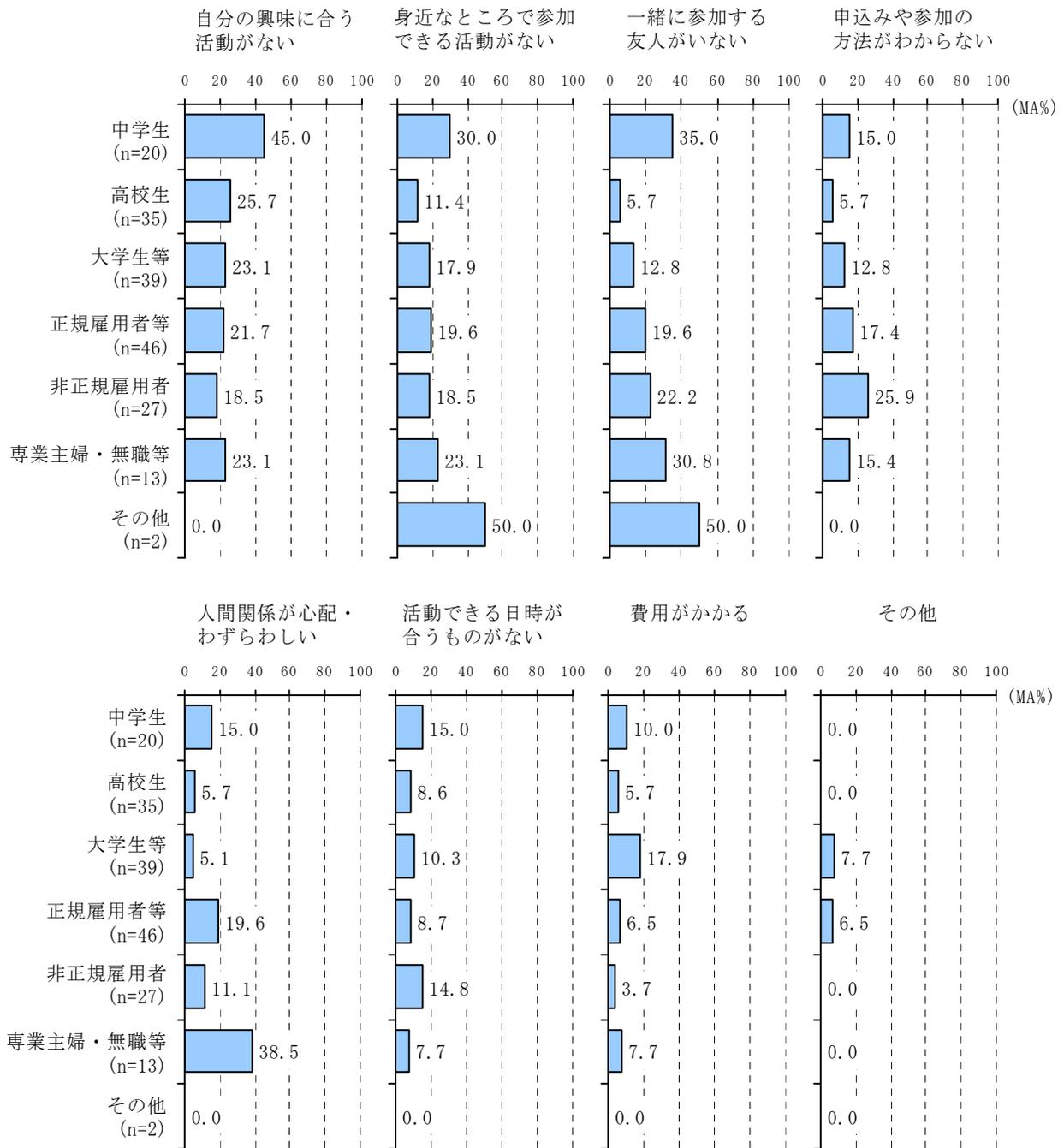
就学・就労形態別で見ると、大学生等と非正規雇用者は「忙しくて時間がない」が5割台で最も多い。中学生、正規雇用者等、専業主婦・無職等は「参加するきっかけがない」が5～6割台を占める。

また、中学生では「自分の興味に合う活動がない」(45.0%)が、高校生は「もともと興味・関心がない」(45.7%)、他の形態に比べて多くなっている。中学生・高校生のニーズに合った活動が不足している。(図4-4-1①～②)

【図4-4-1① 就学・就労形態別 参加しなかった理由】



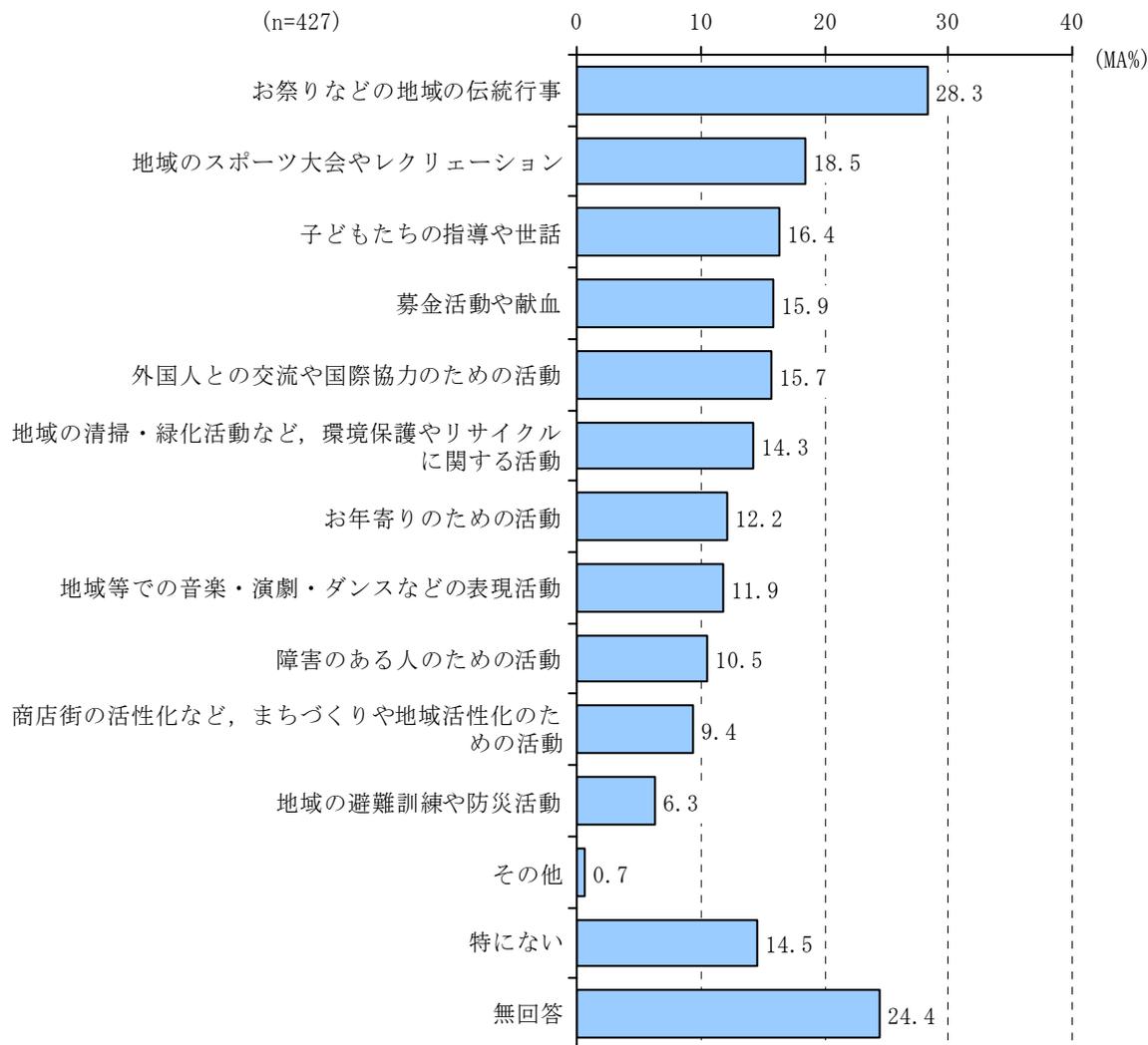
【図 4-4-1②】 就学・就労形態別 参加しなかった理由



(5) 今後参加してみたい活動

問19-2 今後参加してみたい活動はありますか。(〇はいくつでも)

【図 4-5 今後参加してみたい活動】

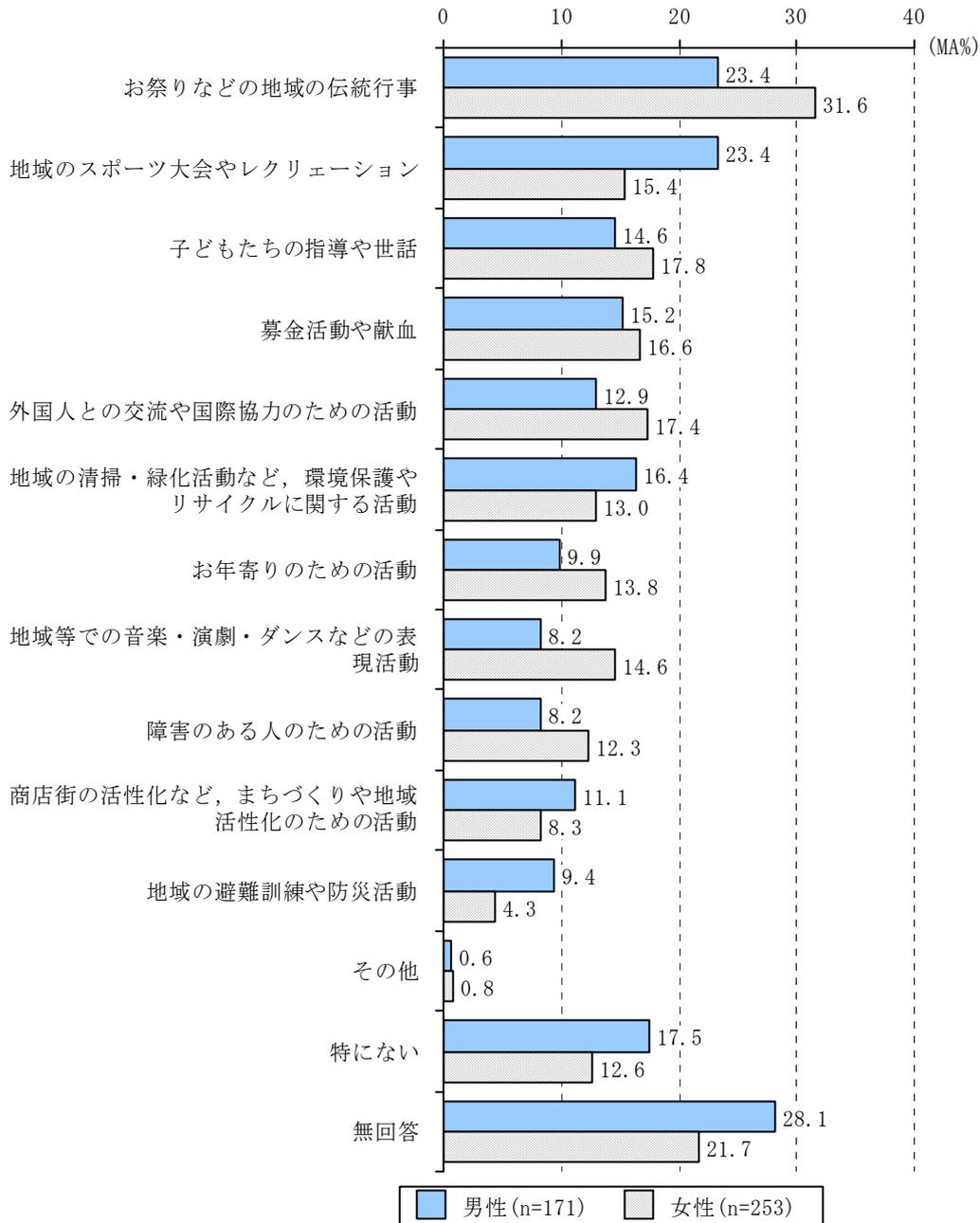


「お祭りなどの地域の伝統行事」が28.3%で最も多く、次いで「地域のスポーツ大会やレクリエーション」(18.5%)、「子どもたちの指導や世話」(16.4%)、「募金活動や献血」(15.9%)、「外国人との交流や国際協力のための活動」(15.7%)となっている。(図4-5)

性別で見ると、男性は「お祭りなどの地域の伝統行事」と「地域のスポーツ大会やレクリエーション」が共に23.4%で最も多く、次いで「地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動」(16.4%)となっている。女性は「お祭りなどの地域の伝統行事」が31.6%で最も多く、次いで「子どもたちの指導や世話」(17.8%)、「外国人との交流や国際協力のための活動」(17.4%)となっている。

男女とも地域の伝統行事への参加ニーズが高い。(図4-5-1)

【図 4-5-1 性別 今後参加してみたい活動】



主な就学・就労形態別で上位5項目をみると、中学生、大学生等、正規雇用者等、専業主婦・無職等は「お祭りなどの地域の伝統行事」が最も多い。高校生は「特にない」(19.1%)が最も多く、非正規雇用者は「お祭りなどの地域の伝統行事」と「子どもたちの指導や世話」が共に22.4%で最も多くなっている。

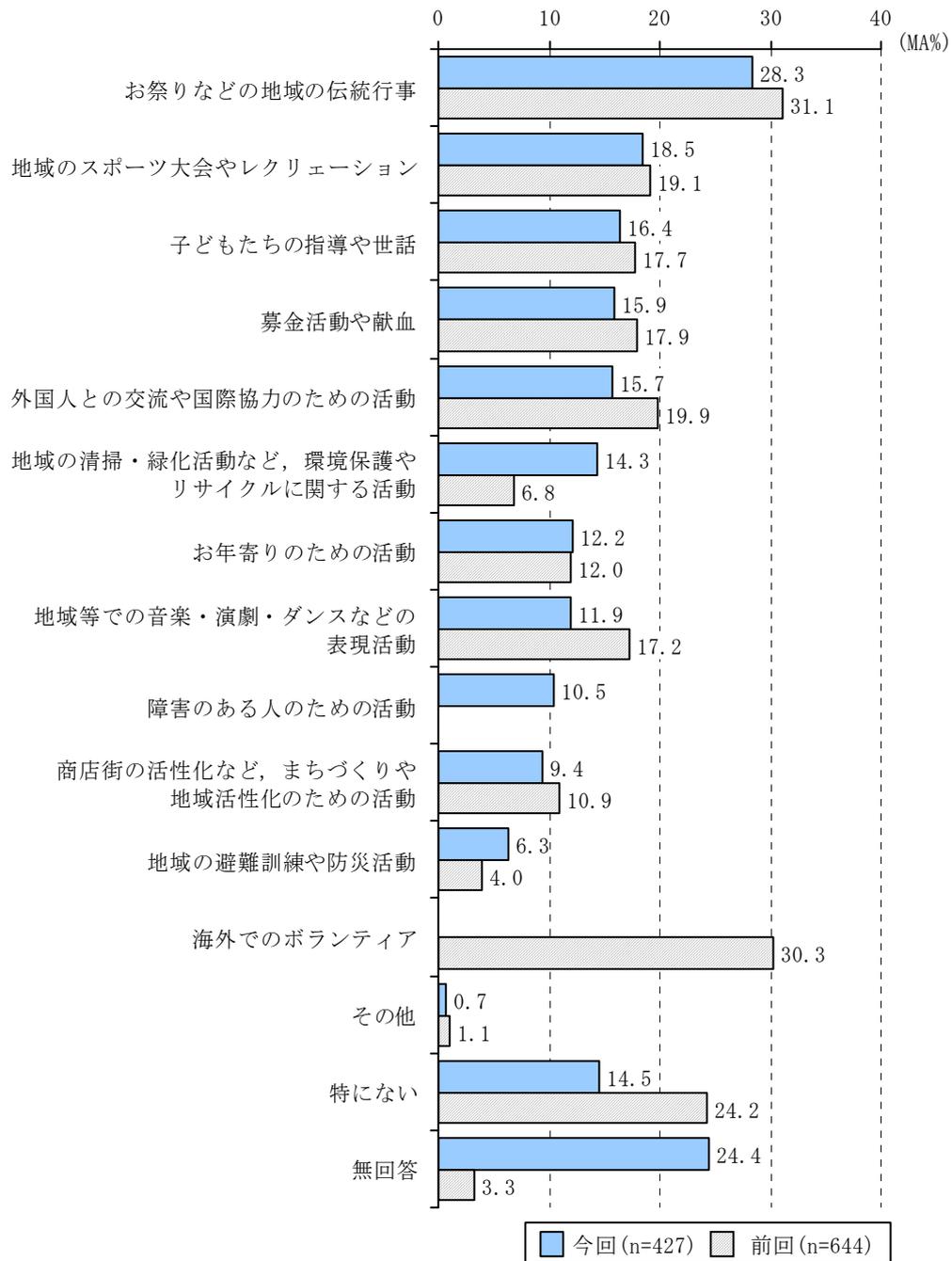
「お祭りなどの地域の伝統行事」は就学・就労形態に関係なく、参加ニーズの高い活動となっている。(表4-5-2)

【表 4-5-2 主な就学・就労形態別 今後参加してみたい活動(上位5項目)】

(単位:MA%)

| | 第1位 | 第2位 | 第3位 | 第4位 | 第5位 |
|--------------------|------------------------------|--|-------------------------------|---|---|
| 中学生 (n=91) | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 | 特にない |
| | 33.0 | 24.2 | 18.7 | 16.5 | 14.3 |
| 高校生 (n=68) | 特にない | お祭りなどの地域の伝統行事 子どもたちの指導や世話 | | 外国人との交流や国際協力のための活動 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション |
| | 19.1 | | 17.6 | 14.7 | 11.8 |
| 大学生等 (n=74) | お祭りなどの地域の伝統行事 | 子どもたちの指導や世話 外国人との交流や国際協力のための活動 | | 地域のスポーツ大会やレクリエーション 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 | |
| | 29.7 | | 24.3 | | 18.9 |
| 正規雇用者等 (n=101) | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション | 募金活動や献血 | お年寄りのための活動 | 外国人との交流や国際協力のための活動 |
| | 31.7 | 22.8 | 20.8 | 18.8 | 17.8 |
| 非正規雇用者 (n=49) | お祭りなどの地域の伝統行事 子どもたちの指導や世話 | | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 | 募金活動や献血 外国人との交流や国際協力のための活動 | |
| | | 22.4 | 18.4 | | 14.3 |
| 専業主婦・無職等 (n=30) | お祭りなどの地域の伝統行事 | 地域のスポーツ大会やレクリエーション お年寄りのための活動 特にない | | | 地域の清掃・緑化活動など、環境保護やリサイクルに関する活動 外国人との交流や国際協力のための活動 |
| | 36.7 | | | 20.0 | 13.3 |

<前回調査との比較>



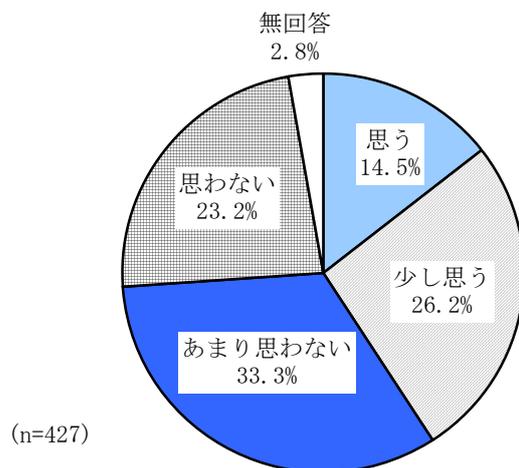
前回調査と比較すると、参加したい地域活動の種類には大きな違いはみられないが、「特にない」は 9.7ポイント低下している。依然、「お祭りなどの地域の伝統行事」への参加ニーズが高い。

5 市政やまちづくりについて

(1) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向

問20 市政や地域のまちづくりに関して意見を述べられる機会があれば、述べてみたいと思いますか。(〇は1つ)

【図 5-1 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向】

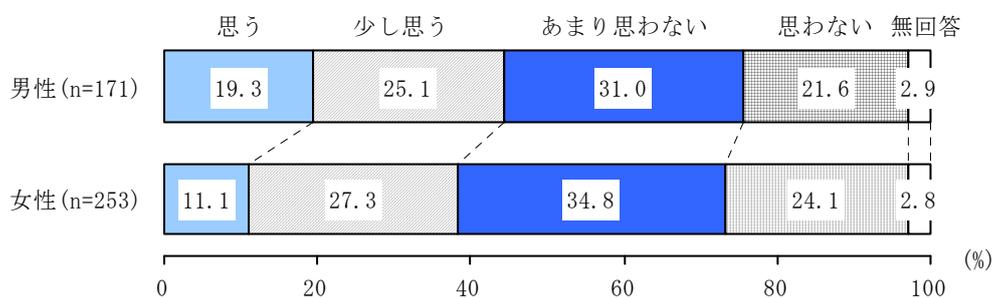


「述べてみたいと思わない」(「あまり思わない」と「思わない」を合わせた割合)は56.5%となっている。(図5-1)

性別では、「述べてみたいと思う」は、男性44.4%に対し、女性が38.4%で、6ポイントの差が生じている。

「思う」の割合は男性の方が8.2ポイント高く、女性に比べ男性の方が意見表明に対しやや積極的な意識がみられる。(図5-1-1)

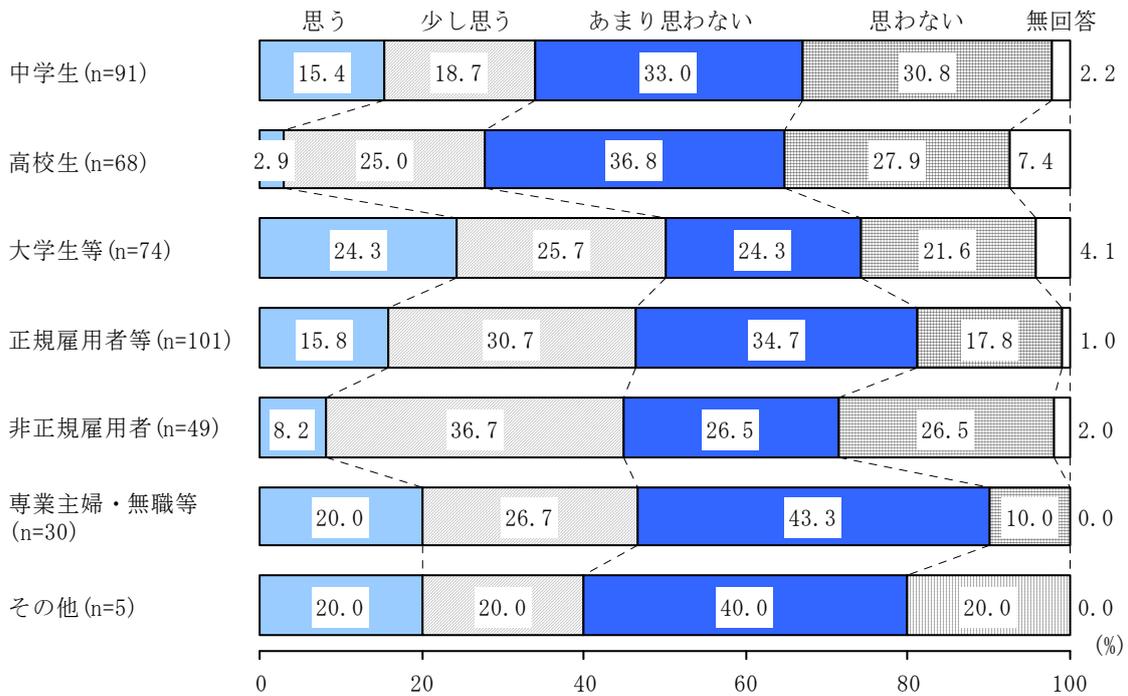
【図 5-1-1 性別 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向】



就学・就労形態別では、大学生等は「述べてみたいと思う」(50.0%)が多い。他の形態では「述べてみたいと思わない」が多く、特に高校生は64.7%と他の形態より高い。

中学生・高校生とその他の形態で意見表明に対する考え方に大きな違いがみられるのは、政治や社会全体の動向などに対する関心度の差が表れている結果だと考えられる。(図5-1-2)

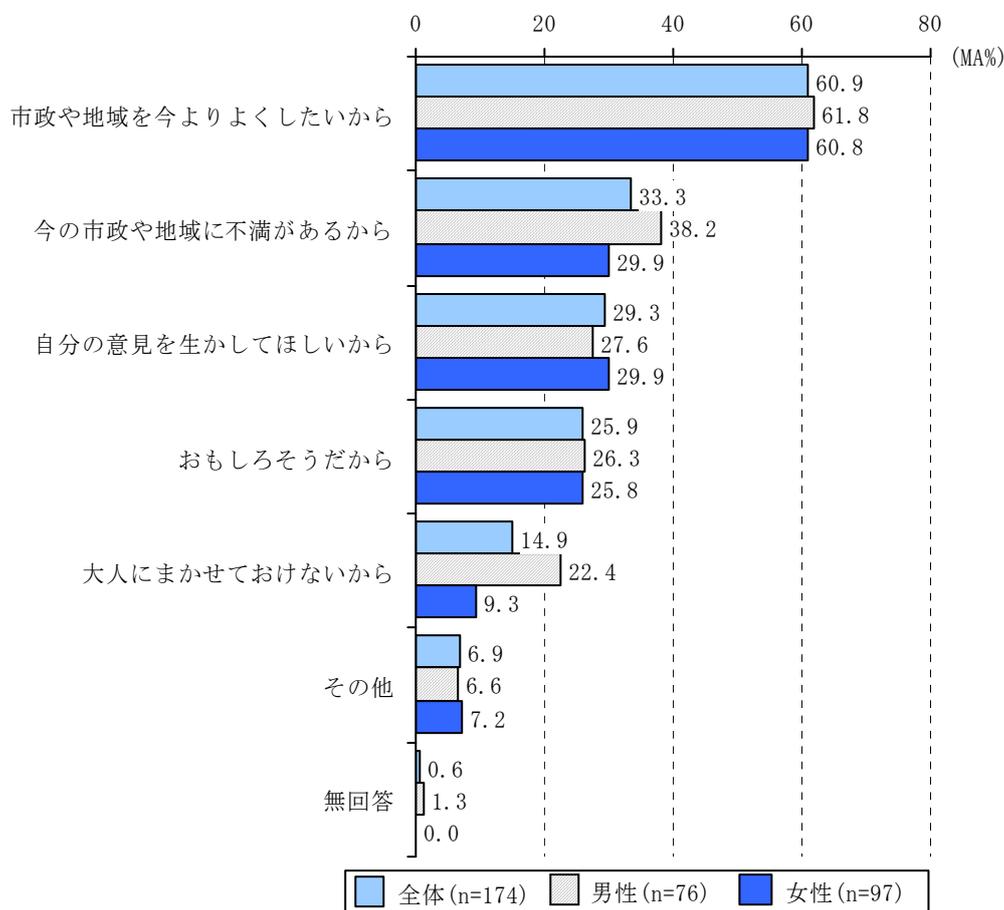
【図 5-1-2 就学・就労形態別 市政やまちづくりに関する意見表明の機会への参加意向】



(2) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したい理由

問20-1 《問20で「1. 思う」「2. 少し思う」に○をつけた方におうかがいします。》
 そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

【図 5-2 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したい理由】



市政やまちづくりに関して「意見を述べてみたいと思う」と回答した人に、その理由をたずねると、「市政や地域を今よりよくしたいから」(60.9%)が最も多く、次いで「今の市政や地域に不満があるから」(33.3%)、「自分の意見を生かしてほしいから」(29.3%)、「おもしろそうだから」(25.9%)となっている。

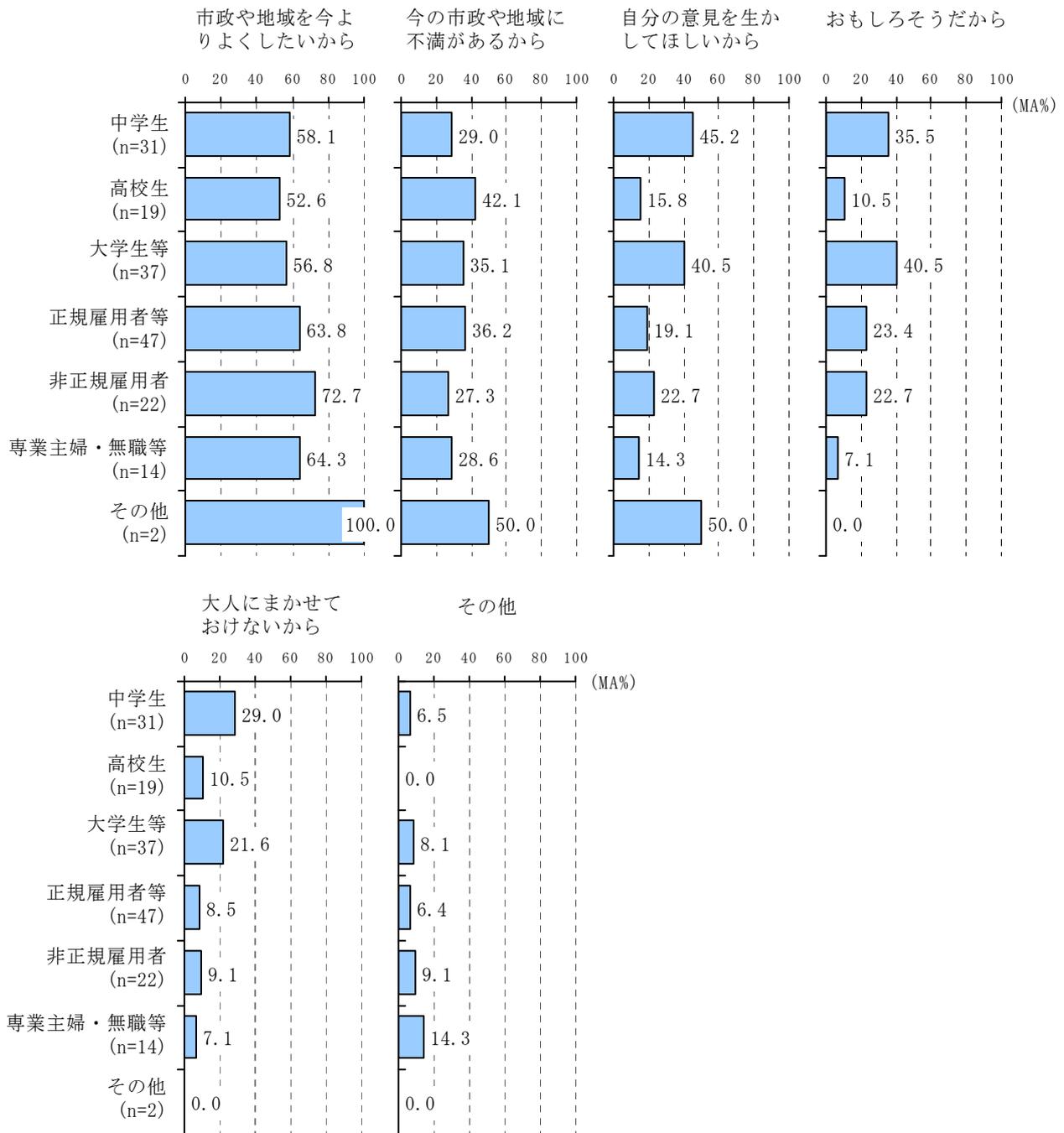
性別では、男女とも「市政や地域を今よりよくしたいから」が最も多い(男性61.8%、女性60.8%)。次いで、男性では「今の市政や地域に不満があるから」(38.2%)が、女性では「今の市政や地域に不満があるから」と「自分の意見を生かしてほしいから」(共に29.9%)が多くなっている。

全体的に、意見表明の意思をもつ青少年は、単に市政や地域に対する不満を抱えているのではなく、それ以上に自分たち自身でまちを良くしたいという前向きな考え方をもっている様子が見えてくる。(図5-2)

就学・就労形態別では、いずれも「市政や地域を今よりよくしたいから」が最も多く、特に非正規雇用者は72.7%で高くなっている。

また、「自分の意見を生かしてほしいから」と「おもしろそうだから」は、中学生と大学生等で他の形態より20ポイント以上高くなっており、純粋な興味を持っていることがうかがえる。(図5-2-1)

【図 5-2-1 就学・就労形態別 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したい理由】

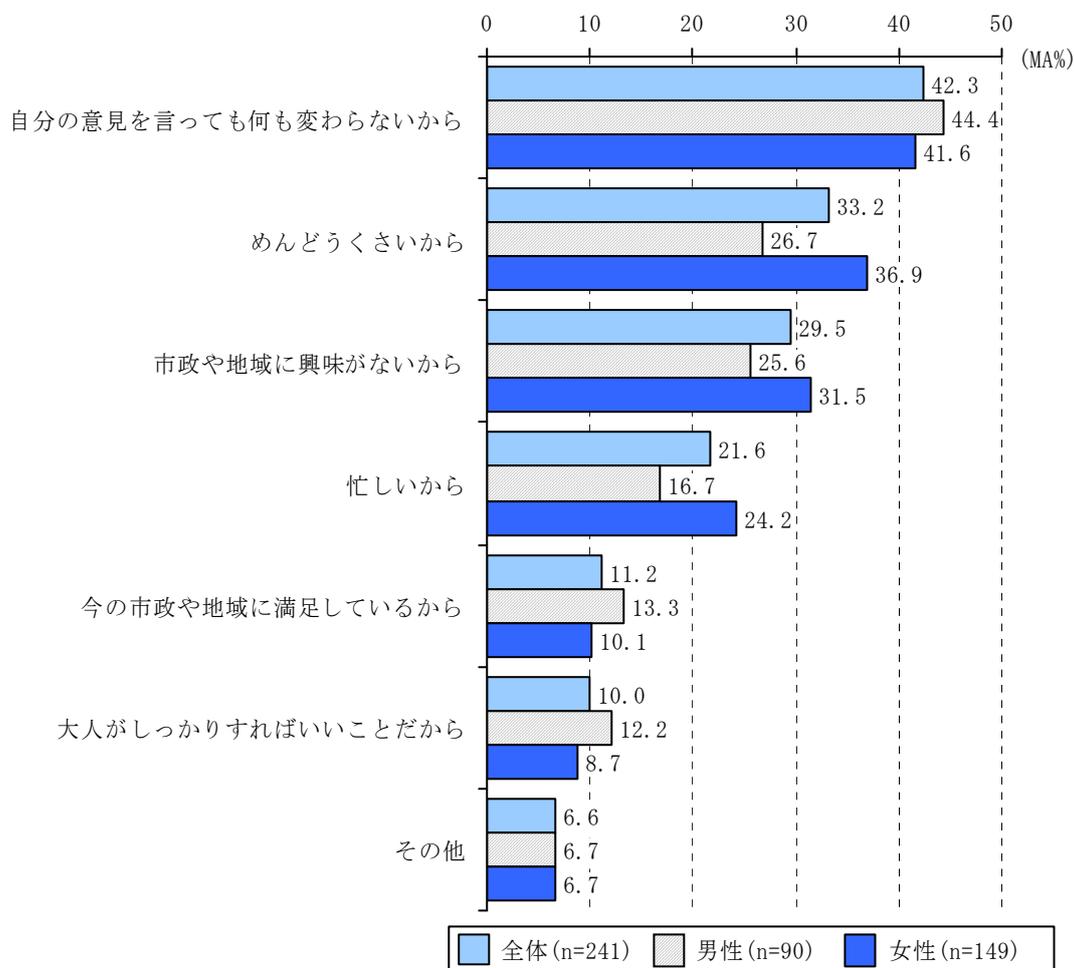


(3) 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したくない理由

問20-2 《問20で「3. あまり思わない」「4. 思わない」に○をつけた方におうかがいします。》

そう思う理由は何ですか。(○はいくつでも)

【図5-3 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したくない理由】



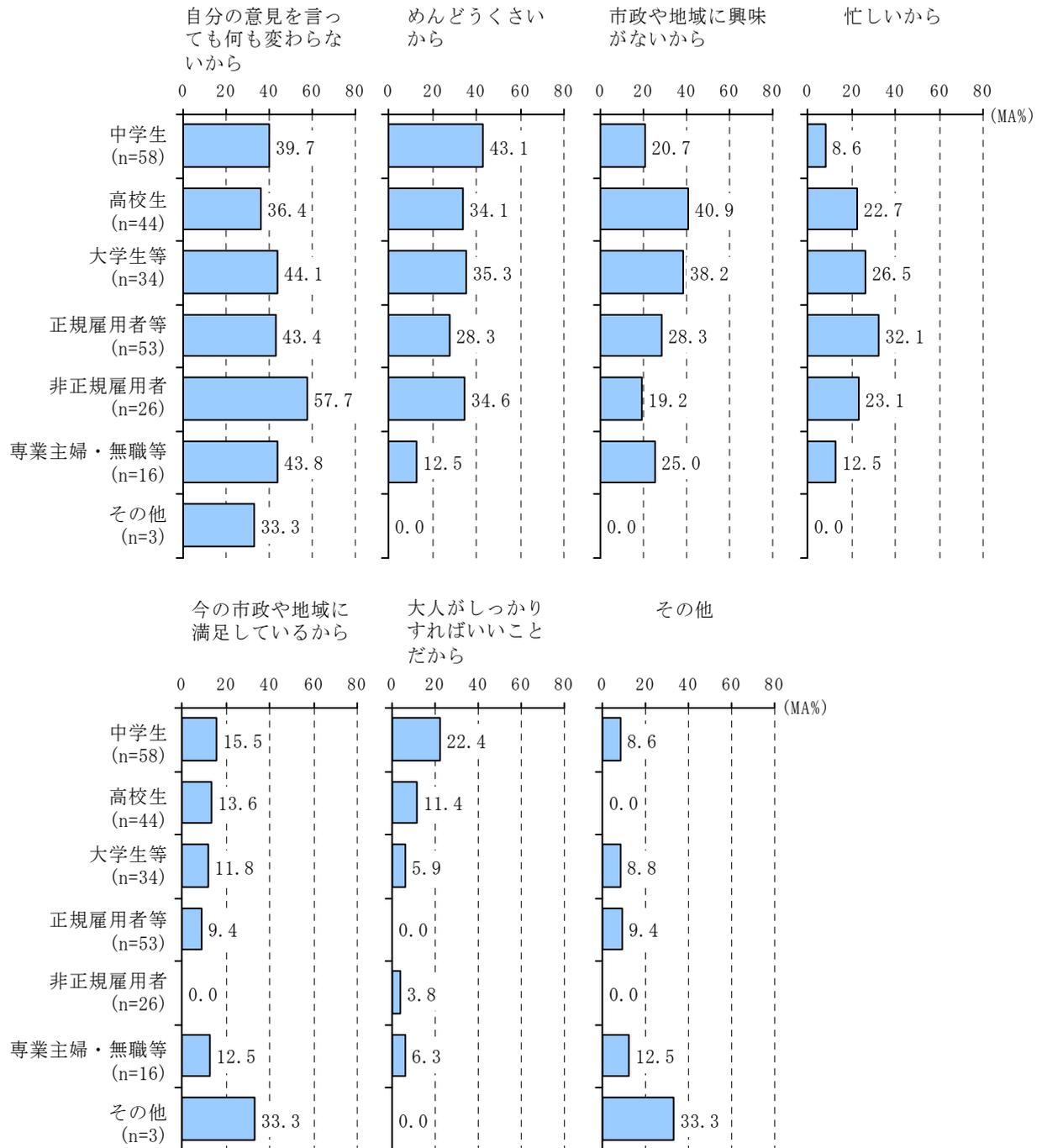
市政やまちづくりに関して「意見を述べたいと思わない」と回答した人に、その理由をたずねると、「自分の意見を言っても何も変わらないから」(42.3%)が最も多く、次いで「めんどくさいから」(33.2%)、「市政や地域に興味がないから」(29.5%)となっている。

性別で見ると、男女とも「自分の意見を言っても何も変わらないから」が最も多い(男性44.4%、女性41.6%)。次いで、男女とも「めんどくさいから」(男性26.7%、女性36.9%)だが、男性と女性で10.2ポイントの差が生じている。他に5ポイント以上の差が生じているのは「市政や地域に興味がないから」「忙しいから」で、いずれも女性が高くなっている。

意見表明の意思がない青少年は、全体的に市政や地域に対する無関心・興味のなさというよりも、自分の意見では何も変えられないというあきらめ感の方が強くなっている。(図5-3)

就学・就労形態別でみると、中学生では「めんどくさいから」(43.1%)、高校生では「市政や地域に興味がないから」(40.9%)が最も多く、市政等に対する無関心さがうかがえる。他の形態では「自分の意見を言っても何も変わらないから」が最も多く、あきらめ感が強く表れている。(図5-3-1)

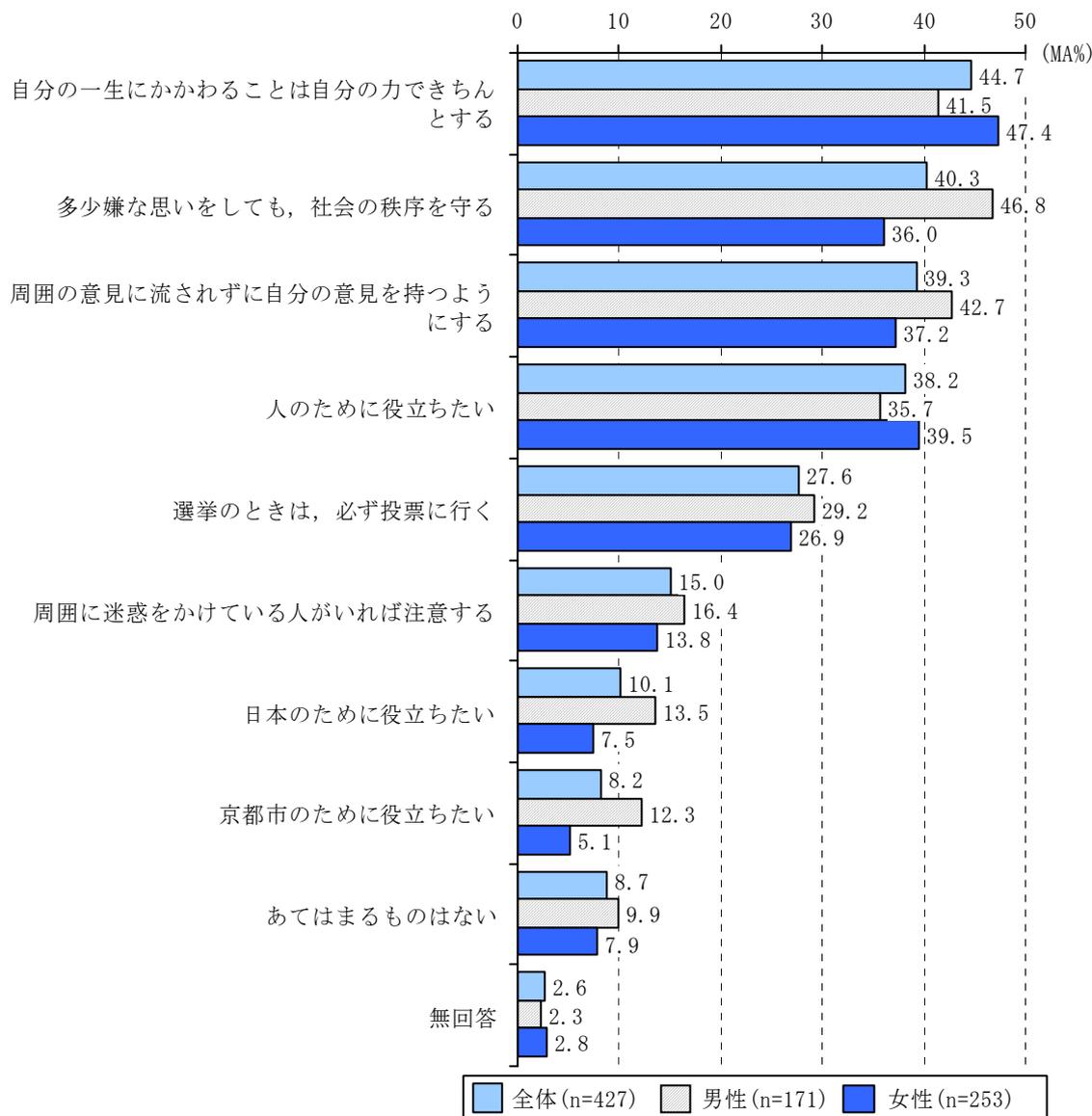
【図 5-3-1 就学・就労形態別 市政やまちづくりに関する意見表明の機会に参加したくない理由】



(4) 社会の一員として心がけていること

問21 社会の一員として、あなたが心がけていることは何ですか。(〇はいくつでも)

【図5-4 社会の一員として心がけていること】



「自分の一生にかかわることは自分の力できちんとする」が44.7%で最も多く、次いで「多少嫌な思いをしても、社会の秩序を守る」(40.3%)、「周囲の意見に流されずに自分の意見を持つようにする」(39.3%)、「人のために役立ちたい」(38.2%)となっている。

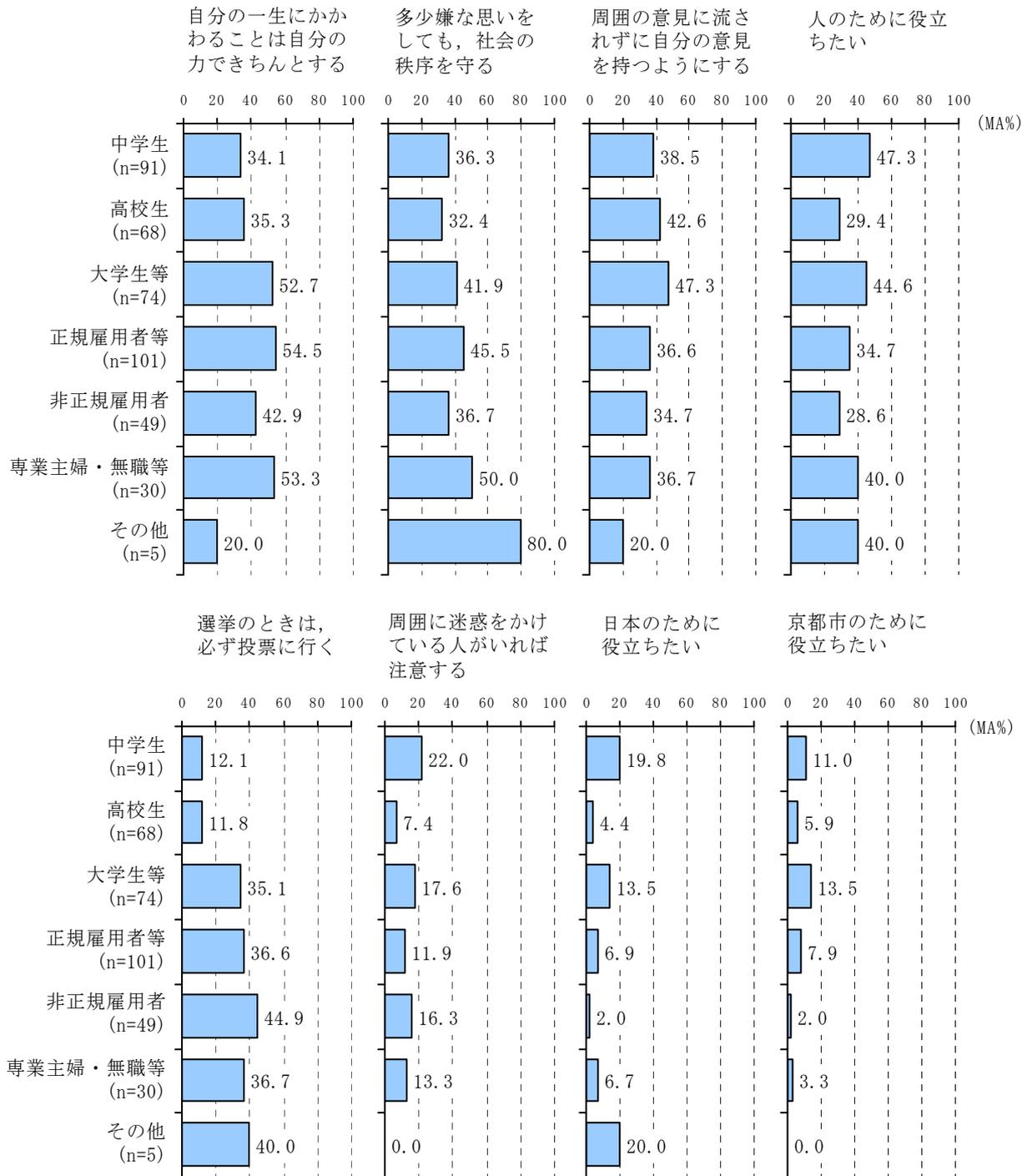
性別でみると、男性は「多少嫌な思いをしても、社会の秩序を守る」が46.8%で最も多く、次いで「周囲の意見に流されずに自分の意見を持つようにする」(42.7%)、「自分の一生にかかわることは自分の力できちんとする」(41.5%)となっている。一方、女性は「自分の一生にかかわることは自分の力できちんとする」が47.4%で最も多く、次いで「人のために役立ちたい」(39.5%)、「周囲の意見に流されずに自分の意見を持つようにする」(37.2%)となっている。(図5-4)

就学・就労形態別でみると、中学生は「人のために役立ちたい」(47.3%)、高校生は「周囲の意見に流されずに自分の意見を持つようにする」(42.6%)が最も多い。

非正規雇用者は「選挙のときは、必ず投票に行く」(44.9%)が最も多く、政治の現状に対する不満が表れている。

その他の形態では「自分の一生にかかわることは自分の力できちんとする」が5割台で最も多い。(図5-4-1①～②)

【図5-4-1① 就学・就労形態別 社会の一員として心がけていること】



【図 5-4-1② 就学・就労形態別 社会の一員として心がけていること】

